

意見交換会実施報告書

開催日時	平成27年11月10日（火） 午後6時30分 ～ 午後8時10分						
開催場所	平公民館 学習室						
出席議員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">勝野 富男（責任者）</td> <td style="width: 50%;">高橋 正（司会）</td> </tr> <tr> <td>大厩 富義（報告者）</td> <td>神社 正幸（報告者）</td> </tr> <tr> <td>降旗 達也（記録者）</td> <td>平林 英市（受付等）</td> </tr> </table>	勝野 富男（責任者）	高橋 正（司会）	大厩 富義（報告者）	神社 正幸（報告者）	降旗 達也（記録者）	平林 英市（受付等）
勝野 富男（責任者）	高橋 正（司会）						
大厩 富義（報告者）	神社 正幸（報告者）						
降旗 達也（記録者）	平林 英市（受付等）						
参加市民数	9人						
議会報告内容	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度決算の概要及び事務事業評価について ・人口ビジョン・総合戦略について 						
意見交換内容 (要望提言等)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;"> 空き家の活用について </div> <p>○発言1 地域の活力が低下し、空き家の増加も顕著になってきた。都会からの移住希望者は古い住宅に関心があるため、定住促進に向けて空き家の積極的な活用を推進すべき。</p> <p>★回答1 空き家にどうやって人を呼び込むかは課題であり、視察した四国の神山町では、地域が必要とする業態を募集するなどの取組みもある。市が取り組むアートによるまちおこしと関連した展開や、行政がイニシアチブをとった情報発信に期待したい。また、移住者を受け入れる地域の体制づくり、意識の醸成も大切である。</p> <p>○発言2 空き家バンクの活用や移住希望者と空き家のマッチングなど、行政が責任をもって窓口をやるべきではないか。</p> <p>★回答2 市役所の定住促進係が対応しているが、今後、さらにきめ細かな対応が必要な時期に来ていると思われる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;"> 農業・林業について </div> <p>○発言3 農地の荒廃が進んでおり、魅力ある農業を展開するために土地の利活用の検討が必要だ。</p> <p>★回答3 農地に関しては、新たな農業を自ら考えていくことも大切である。市外から若い農業者を招き入れていくことなども考えられる。多角的な検討が必要である。</p> <p>○発言4 大町市は自然の中で生活しているまちである。企業誘致が進まない中で、農林業などを雇用の場として再考し、空き家ともセッ</p>						

トで検討するべきだ。移住定住の助成金が先行しているが、自然が大好きな方、農業を真剣にやりたい方なども受け入れられるような体制づくりや情報提供が必要だ。

★回答 4

高齢化等により太陽光発電用地へと替わる農地も増えている。一方で小規模農地を耕して生活したい方もいる。様々な情報を把握して対策を進めなければならない。八坂地区の空き家はすべて活用されているとのことで、林業等の従事者も利用している。

○発言 5

移住者や非農家の方が農業をすぐ始められる体制が整っているのか。

★回答 5

農地の賃貸借は可能だが、農地の取得には一定の面積が必要なため現状では難しい。国の特区などの活用も考えられる。

移住・定住の促進について

○発言 6

「移住・定住」の順番について、日本全体の人口が減っているのに移住を優先するのはおかしい。定住者が住み良ければ移住者は増える。定住者対策を充実すべき。また、大町独自の産業を興すべきで、観光と自然が重要だ。また、銀座ナガノは単なる土産屋で、長野県への移住を進める施設と感しない。

★回答 6

ご意見として承り、行政に伝える。

○発言 7

「なぜ市外に出ていくか」とのアンケートが来たが、引っ越しした方に調査してほしい。大町に住むうえで雪が課題という方が多いが、市民も雪についてプラス思考の発言をすべき。市職員が南の方の市外に転居するのもいかなものか。

★回答 7

ご意見として承り、行政に伝える。

○発言 8

別荘地周辺に外国人が増えてきた。住民票を置かずに好き勝手なことをいわれても困る。移住定住促進のため無条件で受け入れるのではなく、大町を本当に愛してくれる方に住んでもらいたい。

★回答 8

ご意見として承る。

○発言 9

あるTV番組で、空き家を行政が引き受けて、地域おこしの協力者等に貸し与えている事例を見たが、このような方策も可能ではないか。

★回答 9

市ではそこまでの体制になっていないが、今後、積極的な行政の対応が必要な時期と感じる。ご意見として承る。

人口問題について

○発言 10

人口減少は本当によくないのか。ある程度の人口水準が必要と思うが、自然が好きで移住してきた立場からすれば、観光人口等が増えすぎると嫌になる。

★回答 10

ご意見として承る。

○発言 11

人口減少しても、基本的なインフラ整備は必要である。公共施設等を含め、都市機能は町の中心に、自然が好きな人は郊外にとこのような、各自の考え方に応じて、多少不便なところもあると思うが納得して住んでもらえばどうか。今後の都市計画にも配慮が必要だ。

★回答 11

ご意見として承る。

○発言 12

人口ばかり追求していくのではなく、「大町らしい大町」にしていかなければと思う。

★回答 12

市の総合戦略の目指すところもその部分である。市長が新たに打ち出した芸術文化という手段もその一つである。大町の豊かな自然にひかれて来てくれる多くの方がいる。同時に大町らしい田舎暮らしを理解してもらえる取り組みの充実が必要である。

○発言 13

移住定住を推進するあまり、地域にとけ込めない方や地域コミュニティを崩壊させるような発言する方が来ても正直困ってしまう。しかし、市の活力を維持する意味からも2060年に2万人程度を確保することは妥当な数値と思う。

★回答 13

ご意見として承る。

自治会について

○発言 14

先の地震を教訓として「防災隣組」という意識をもち、近所同士の助け合いや地域コミュニティの大切さを分かってもらう取り組みが重要だ。また、地域の方が清掃管理しているごみの回収場所なので、移住者等にはそうした事情などを丁寧に説明し、自治会への加入促進に努めてほしい。

	<p>★回答 1 4 「防災隣組」の件と移住者等への丁寧な説明の件は行政に伝える。</p> <p>○発言 1 5 自治会と市との関係について、それぞれの役割等を整理して見直してみるべきではないか。自治会費、各種事業の内容、各種集金等のやり方など違うので、自治会同士の交流で良い点を吸収し合うべき。</p> <p>★回答 1 5 自治会としての負担が大きいいという話は聞いている。市でも連合自治会と協力して課題の検討や自治会相互の情報交換は行っている。</p> <p>○発言 1 6 戸数の減少により、従来の行事ができない、負担が増えるなどの課題があり、自治会の再編というのも検討時期ではないか。また、多くの会議等へ召集されるため、自治会長など役員の負担が大きすぎる。</p> <p>★回答 1 6 自治会の人口減小などにより、例えば子ども会などを合同で行う取り組みもあり、また、自治会再編に助成金のある先進自治体もある。自治会や自治会長が行政の下請け機関的ではなく、自分たちで自治を守るため創意工夫した活動を考えてほしい。また、若い住民が興味を持って参画してくれる自治会づくりも必要だ。</p> <p>地域高規格道路について</p> <p>○発言 1 7 松本糸魚川連絡道路は、防災面や緊急輸送面からもあって当然と思う。近々、ルート案が示されるとのことだが、他地域の事情等でなかなか進まない。市議会としてももっと強力で推進してほしい。</p> <p>★回答 1 7 市議会としては、特別委員会を設け、関係機関との情報交換や県等へ要望活動などを行っている。県では、年末までに起点から大町市街地南間のルート案を示すとのことなので、それを受けてさらなる推進に努めていきたい。事業主体の県において、一層積極的に取り組んでもらうよう要望していきたい。</p>
<p>その他 特記事項</p>	